

多職種連携とICT・IoTを最大限に活かした在宅支援 MBC(Medical Base Camp)による地域包括ケアの実現



病院と在宅をシームレスにつなぎ、高齢の患者が安心して地域で暮らし続けることを支援するMBC(Medical Base Camp)

■社会医療法人祐愛会——佐賀県鹿島市

社会医療法人祐愛会織田病院は、院内の多職種連携や地域の診療所との病診連携、そしてICTやIoTを最大限に活用した在宅支援により、従来の「治す医療」から、「治し支える医療」への転換を実現。介護領域を支えるゆうあいレジッドと共に、少子高齢化が急激に進む地域において、医療と介護を支えるかけがえのない存在となっている。

上が多い。

『治す医療』から『治し支える医療』へ

佐賀県の南西部に位置する鹿島市は、干潟で有名な有明海に面し、西には多良岳山系の山々を望む豊かな自然に恵まれている。人口は約2万9000人、世帯数1万124世帯の鹿島市で100年以上の歴史を持つのが、社会医療法人祐愛会織田病院である。周辺は佐賀県南部医療圏として圏内の人口約15万人を数え、75歳以上の人口が17・1%、高齢化率は32・9%、医療圏内の年齢層では85歳以上が最も多い。

このような地域の中で、織田病院は、「Aging in place」を病院の中長期ビジョンとして掲げ、急性期医療から在宅まで、保健（予防・医療・福祉・介護）の各分野を一体的に提供できる、総合ヘルスケアシステムの構築を進めている。地域の現状と法人の役割について、理事長の織田正道氏は次のように語る。

「佐賀県南部医療圏は、全国平均以上に高齢化が著しく、ここ10数年で85歳以上の救急搬送患者は25倍、新規入院者は30倍と、それぞれ急増しています。これ

に対応するため当院では、『治す医療』から『治し支える医療』への転換を実現するべく、院内においては安心して在宅へ帰すためのチーム医療、退院直後については在宅とシームレスになく仕組み、在宅では地域とともに支える仕組み、以上3つの実現に取り組んでいます」



社会医療法人祐愛会 織田病院
理事長 織田 正道氏

「佐賀県南部医療圏は、全国平均以上に高齢化が著しく、ここ10数年で85歳以上の救急搬送患者は25倍、新規入院者は30倍と、それぞれ急増しています。これに対応するため当院では、『治す医療』から『治し支える医療』への転換を実現するべく、院内においては安心して在宅へ帰すためのチーム医療、退院直後については在宅とシームレスになく仕組み、在宅では地域とともに支える仕組み、以上3つの実現に取り組んでいます」

佐賀県鹿島市で100年以上の歴史を持つ社会医療法人祐愛会織田病院の外観。地域の人々が安心して生活できるように24時間365日、在宅急変患者・救急患者の受け入れ体制をとっている。二人主治医制を原則とし、開放型病床の登録医60名と連携し、地域医療を強化している。写真は勉強会の様子。織田病院は術後疼痛管理・在宅慢性期領域パッケージの看護師特定行為指定研修機関となっている。写真は看護師特定行為研修センター開講式の様子。



地域において24時間365日 急変・救急患者を断らない

社会医療法人祐愛会の中核となる織田病院は病床数111床（一般）、2004年に開放型（病床）病院（登録医60名）となり、2年後の2006年にはDPPC対象病院、2012年には在宅療養支援病院（強化型）となった。

診療科は内科、外科、循環器、胸部心臓血管外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科や麻酔科、リハビリテーション科などがあり、常勤する医師は30名、看護体制は急性期一般入院基本料1の7・1、現在（2019年度）、平均在院日数は11・6日、病床稼働率は95・5%、新規入院患者数は3192人となっている。

「以前は外来患者さんが600〜700名ほどでしたが、今はその半分ほどを地域のかかりつけ医（登録医）に逆紹介し、代わりに24時間365日救急患者や在宅の急変患者を絶対に断らずに受け入れ、月に300名以上の紹介をいただいています」（織田理事長）

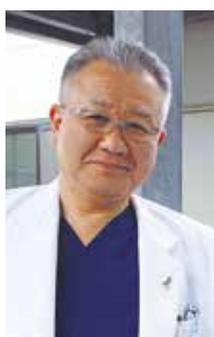
急性期病院としての機能に加え、同院では後述するメディカル・ベースキャンプ



（MBC）による在宅医療の支援も、法人の重要な機能としている。これにともない、かかりつけ医との間のCTやMRIの共同利用も進んでおり、その数は年間1千件以上となる。

こうした地域の医療機関とのスムーズな連携は、MBCやIoT化による病診連携などの仕組みはもとより、地域の歴史ある病院として、地区医師会との繋がりや良好な関係性も大きく影響していると、同病院院長で地区医師会の副会長も兼務している伊山明宏氏は指摘する。

「病院の規模が111床と、地域の病院としては小回りの利く大きさだということもあるのですが、鹿島市には公立病院がないことから私たちが社会医療法人として、地域の大きな課題に率先して取り組まなければなりません。ですから地域の開業医の先生方の力になれよう適切に調整し、良好な連携を保っていくことで、地域の医療を支えていき



織田病院 院長 副会長
地区医師会 伊山 明宏 氏

MBCチームと 在宅見守りシステム

「たいと考えています」

織田病院では、入院早期からスクリーニングを行い、退院支援を目的とした多職種協働フラット型支援チームをつくり上げた。そのために看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、メディカル・ソーシャルワーカーといった多職種を病棟に配置する。さらに退院後のケアの継続を行い、織田病院の目指す「治し支える医療」を実現するために、病院と在宅とをシームレスにつなぎ、高齢の患者が地域で安心して暮らし続けることを支えるのが、メディカル・ベースキャンプ（MBC）とIoTを活かした在宅見守りシステムである。

MBCは、2015年、織田病院の2階にある「連携センター」内に設置された、退院直後の在宅医療支援を行うチームである。MBCチームは医師、訪問看護師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ヘルパーの多職種約30名で構成され、患者の退院と同時に在宅医療の支援を開始する。これにより、退院直後2週間の在宅療養生活



（左上から）治療と並行して、多職種協働フラット型チームで在宅医療に向けての支援を進めている。（左下から）多職種で、MBC（メディカル・ベース・キャンプ）による退院直後の在宅医療支援の強化、ケアの継続を図っている。（右下）訪問診療の様子。電子カルテのクラウド化により在宅でも電子カルテの活用が可能。



上からデイサービスに通いながらも、訪問・宿泊が必要な方が利用している『小規模多機能ホームゆうあい』の外観。ウォーキング教室やフィットネスなど介護予防を行う『ゆうあいフィットネス』の外観。『ケアセンター』『デイケア』の外観。介護保険で要介護認定を受けた方が利用できる介護付き有料老人ホーム『レジデンスゆうあい』の外観。

を見守り、症状が安定した段階で地域のかかりつけ医に引き継いでいく。

「MBCがある連携センターに設置した80インチの大型モニターには、リアルタイムで退院が決定した患者さんの氏名などが表示されます。またMBCに移行した患者さんの自宅が地図上にマッピングされ、訪問に出ているスタッフの動態管理ができ、どのチームがどこにいるのかがリアルタイムで分かります。これにより緊急時には、近くにいるスタッフが患者さん宅に駆けつけることも可能です」(織田理事長)

一方で、患者の自宅にはICTやIoTを活用した見守りシステムが設置される。患者宅のテレビを利用したビデオ通話による声かけ機能、バイタルデバイスを用いた心拍計測、室温センサーやワットチェッカーを使った熱中症対策のための室温管理などで、患者の在宅生活の安心を支えているのだ。

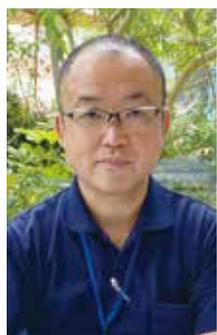
こうした一連のシステムの基盤となっているのが、退院支援データベースの総合管理システムである。デスクトップ仮想化により、パソコンやタブレット端末にはデータが残らず、情報流出防止への配慮

がなされており、訪問先でも見る事ができる。
MBCとIoTによる退院支援の手ごたえについて、織田病院総合診療科部長でMBCの担当医師である織田良正氏は次のように話す。



織田病院総合診療科部長
MBC担当医師
織田 良正氏

「高齢者の老々介護や独居世帯では、退院した後に入院中のケアが途切れ、すぐに再入院となるケースが少なくありません。そこで、MBCチームが退院と同時に多職種で患者さんの在宅医療への移行を支援することで、入院から一貫した治療とケアができるようになっていきます。今後、退院直後の訪問サービスが必要になる患者さんが増えれば、さらにICT・IoTを活用した効率的な支援が必要に



ゆうあいビレッジ
介護部門総合企画部長
神代 修氏

なる患者さんが増えれば、さらにICT・IoTを活用した効率的な支援が必要に

なるでしょう。ここで問題になるのが通信上の課題です。それだけに、今後進むであろう5G（第5世代移動通信システム）の普及には期待をしています」

地域の介護を幅広く支える ゆうあいビレッジ

社会医療法人祐愛会において、織田病院とともに総合ヘルスケアシステムを支えているのが「ゆうあいビレッジ」である。15年がかりでつくり上げたというこの施設は、約8000坪の緑あふれる敷地内に、入所定員80名・通所定員100名の介護老人保健施設ケアコートゆうあいを中心に、フィットネス、デイケア、小規模多機能型居宅介護（以下、小多機）、特定施設やグループホームなどが点在し、介護予防から重度のケアまで、あらゆる段階に対応できるサービスや施設が用意されている。ゆうあいビレッジ介護部門総合企画部長の神代修氏は、こう解説する。

「ゆうあいビレッジは、いわば大規模多機能の複合施設です。地域で暮らしている介護に関してお困りの方に対し、訪問でも入所でも、短期でも住まいとしても、在宅支援に関して必ず何かしらの



(左上から) デイケアのリハビリルームと『ゆうあいフィットネス』で開催される介護予防フィットネスの様子。訪問看護ステーション、24時間定期巡回随時対応型サービス、訪問診療は病院MBCと協力して進められている。(左下から) 生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組むことを目標として健診事業を行う「健康管理センター」が行う糖尿病料理教室の様子。介護老人保健施設「ケアコートゆうあい」のホール。(右下) ヘルパーステーションゆうあいのスタッフルーム。

認知症や介護度重度の方が自分らしい生活を送るための支援を行う『グループホームゆうあい1丁目』『グループホームゆうあい2丁目』『グループホームゆうあい3丁目』の外観。『デイサービスゆうあいさくら通り』、認知症デイサービス『デイサービスゆうあい七浦』の外観。



手助けができる。地域で過ごすために必要な手立てが、いつでも考えられ、提供できる施設だと自負しています」



ゆうあいビレッジ
副施設長 諸岡 義彦氏

さらに祐愛会では、ゆうあいビレッジのほかにも鹿島市を7つのエリアに分けて、要所に認知症対応型三イサービスを展開するなど、よりきめ細かな在宅支援のサービスをメニュー化している。ゆうあいビレッジ副施設長の諸岡義彦氏は次のように語る。

「ゆうあいビレッジは、軽度の障害から重度、そしてケアが必要な方の居住まで、多彩な機能が集まっていることが最大のセールスポイントです。最近では、認知症対応型三イサービスや小多機の稼働率もかなり高くなり、実績も上がっています。今後も、地域の皆さんから『ゆうあいビレッジに相談すれば安心だね』と言われるように、それぞれの職員が専門性を活かし、地域の力になっていきたいですね」

人材確保のための働きかけと 特定看護師の養成

現在、我が国の医療機関や介護事業所において、質の高い人材確保とその定着は、共通する喫緊の課題だ。この点については祐愛会も同じ課題を抱えていると、織田病院の事務管理部部長代行の宮崎公志氏は指摘する。

「以前に比べると、採用は年々厳しくなっていますね。看護師はもとより、コメディカルについても、なかなか雇用する側が選べる状況ではありません。このため当法人では、地域の中高生を集めて病院での1日体験などを通じ、地元の若者の理解を深め育むことで、安定的に若い人材を確保できるよう働きかけています。外国人職員についても、EPAや留学生の受け入れにより病院で4名、介護で5名を雇用しており、少しずつですが定着してもらえればと考えています」



織田病院
事務管理部 部長代行
宮崎 公志氏

また職員のモチベーションを高めるという点で、専門性を高めるためのキャリアアップの支援も欠かすことはできない。この点については、特定看護師の養成も特徴ある取り組みとして挙げられる。



織田病院看護 部長
原崎 真由美氏

「当院は、術後疼痛管理・在宅慢性期領域パッケージの看護師特定行為指定研修機関となっており、現在3期目の特定看護師を養成しています。1期目と2期目は各5名、3期目は7名が研修を受けており、いずれも祐愛会に所属する看護師です。1・2期の研修を受けた看護師は、1名が訪問看護、1名がゆうあいビレッジの特定施設、それ以外は織田病院の外来や病棟で看護に携わっています。フィジカルアセスメントや臨床推論等を通じ、医師の思考過程を学ぶことは、本人たちの大きなモチベーションになっていると感じますね」と、看護部長の原崎真由美氏は話してくれました。

誰ひとり置き去りにしない SDGsの理念との親和性

総合ヘルスケアシステムにより、「治す医療」から「治し支える医療」へのパラダイムシフトを実現した社会医療法人祐

愛会は、今後どのようなビジョンで進んでいくのか？ 織田理事長は、こう話してくれました。

「私たち法人の開設理念とビジョンは、『誰ひとり置き去りにしない』という、SDGsの共通理念と親和性があります。また、SDGsが掲げている17の目標の中には、当法人の取り組みと融和するものが多く、2030年に向けた当法人のビジョンを具現化したコンセプトを進めていくことで、SDGsに貢献できるものと考えています」

ICTやIoTの活用と多職種連携によるMBCを武器に、地域を支えていく織田病院の取り組みに、今後も注目をしていきたい。

(取材・文／瀬沼健司)

◆Information 社会医療法人祐愛会

〒849-1311 佐賀県鹿島市高津原4306
TEL 0954-63-3275 (代表) FAX 0954-62-4474 (代表)
URL <https://www.yuai-hc.jp/>



- 【関連施設】
- 織田病院
 - ゆうあいビレッジ
 - ・介護老人保健施設ケアコートゆうあい
 - ・グループホームゆうあい
 - ・地域密着型特定施設レジデンスゆうあい
 - ・デイサービスゆうあい
 - ・小規模多機能ホームゆうあい／サテライトゆうあい
 - ・訪問看護ステーションゆうあい
 - ・ヘルパーステーションゆうあい
 - ・在宅ケアサポートゆうあい
 - 小宗神経科学研究所
 - ようこクリニック